

実践 I

2025.5.3. 北野 麻由

<実践 I について>

- ・「みんなの日本語・初級 I」を使って模擬授業をします。直接法で日本語を教えるための練習です。



<受付への提出物>

- ・教案:発表(模擬授業)の前日13時までに受付に提出。
- ・発表後に修正した教案、<観察者>ループリック評価シート:発表後、2週間以内に受付に提出。
- ・自己点検評価シート:実践 II の発表の前に受付に提出。
(<観察者>ループリック評価シート、自己点検評価シートは、受講生向けホームページ AJTClub からダウンロードできます。)

※提出物をメールで送る場合の注意点※

- ・東京、横浜両校宛てに送る。

東京:tokyo@alpha.ac.jp 横浜:yokohama@alpha.ac.jp

- ・教案は PDF 形式にする。PDF のファイル名は、「自分の名前」のみ。

「〇課」など担当課は書かない。

- ・各評価シートは、スマホで撮った写真で OK。

<ZOOM で受講する場合>

- ・発表者の教案が受付からメールで送付されるので、確認すること。
- ・観察者に割り当てられた日は、「<観察者>ループリック評価シート」を印刷すること。

<直接法とは>

目標言語(習得を目標とする言語)だけを使って教えること。つまり、学習者の母語や媒介語(学生と教師両方が理解できる言語)は使用しない。

<教案の書き方について>

- ①手書き、PC 使用どちらも OK。
- ②整理ノート、受講生向けホームページ AJTClub の「教案例」参照。
- ③必ず書く項目

- ・自分の名前
- ・日付 ※発表日
- ・クラス:初級・人数(学習者の種類)

※人数・・・実践 I のクラスの人数。

※学習者の種類・・・自分で決めて OK。基本的に成人。

例(多国籍・成人・留学生・学習目的:日本での進学・就職)

・教材と教具

教材の例:「みんなの日本語 初級Ⅰ」

教具の例:絵カード、文字カード、パワーポイント、レアリア

・学習項目 例:第2課 A 5、6

・学習目標 例:場所を尋ねることができるようになる。

・新出語彙 ※発表で使う語彙のみで OK。

・段階 (WUP/ウォーミングアップ・導入・口頭練習・応用練習)

※模擬授業では、応用練習はやらないが、やるとしたらどんな応用練習をするかを教案に書く。

・導入や口頭練習にかかる時間 (教案例を参照)

※模擬授業では、持ち時間が 20 分しかないため、実際にかけられる時間は下記の通り。

ウォーミングアップ (5分) ⇒ 文型導入 (5 分) ⇒ 口頭練習 (10 分)

・学習事項 例 1:て形の復習 例2:2課 A5

・教室活動→自分のセリフ、学生への指示、学生の反応 (予測して書く)、など

・留意点 (教材の扱い、NG ワードなど)、教具

※コーラス→全体リピート 個別→1人ずつ当てる

<ウォーミングアップとは>

導入に関連のあることを 5 分程度やる。

例:活用形の復習、導入の会話例に関する話を学生に振る、など。

<文型の導入とは>

会話の場面と会話例を2つか3つ提示。 会話例は、まず文字を見せず口頭で。次に文字を見せて、学生にコーラス (全体でリピート) させる。

※学習者の日常に合った場面、学習者が言いそうな文を考えると◎

※該当課の新しい語彙、新しい活用形は入っている前提。

<口頭練習とは>

文型を定着させるための口慣らし練習。パターンプラクティス。

まずクラス全体で練習し、その後一人ずつ個人指名。

※口頭練習の種類

・反復練習 (リピート)

・拡大練習 (少しずつ文を長くする)

・置換練習/代入練習 (文の中の一部の単語を入れ替える)

・転換練習/変形練習 (活用の練習)

・結合練習 (2つ以上の文を1つの文にする)

<応用練習とは>

応用練習の目的:文型を使って、学習目標ができるようになること。

例:「みんなの日本語」の練習Cのような会話練習、ロールプレイ(例えば、ペアで店員役とお客役になって会話をする)など

<役に立つサイト>

●「いらすとや」(フリー素材集)

※イラスト使用は、著作権注意

フリー画像検索例:「会社 イラスト無料」

●「みんなの教材サイト」

⇒イラスト・教師向け文法解説・教室活動(応用練習)

●「日本語学校の授業をのぞいてみよう!」(アルク公式 YouTube

動画)⇒外国人学生相手の授業の感じが少しわかる。

<役に立つ本>

●「みんなの日本語 導入・練習イラスト集」(スリーエーネットワーク)

●「絵で導入・絵で練習」(凡人社)

●「おたすけタスク」(くろしお出版)

「クラス活動集 101」(スリーエーネットワーク)

<模擬授業について>

①持ち時間は、約 20 分。

②ウォーミングアップ(5分)⇒文型導入(5分)⇒口頭練習(10分)

③パワーポイントを使ってもいいし、使わなくてもいい。

④発表しない方は、外国人学生役もしくは観察者になる。

・外国人学生役:発表者(先生)の指示通りにコーラス(全体でリピート)したり、答えたりする。外国人学生がしそうな質問をする。

・観察者:1回の発表につき3人。みなさん必ず1回はやる。

「実践の<観察者(受講生)>ループリック評価シート」に記入する。

※発表後、観察者の方、学生役の方何人かからコメントをいただきます。

<模擬授業をするときの注意点>

①語彙制限を守る。該当の課の新出語彙まで使って OK。

(例えば、第5課の模擬授業をするなら、第1課～第5課に出てくることばだけを使って話す。⇒ティーチャートーク)

※『みんなの日本語 初級 I』P.5 「教室のことば」「毎日のあいさつと会話表現」「数字」→使ってOK。

②文法の説明はなるべくしない。

③ZOOM に外国人学生役の方がいたら、その方も当てる。

<実践の評価（みなさんの成績）について>

①「実践評価シート」（80%）→講師が記入

②「ループリック評価シート」（20%）→観察者が記入

100 点×0.8＋100 点×0.2 で合計点を出す。

※「自己点検 評価シート」は、実践の評価には入らない。

<次回までの宿題>

外国人学生役の名前と国籍を考えて、名札を作ってきてください。

例：チョウ（中国）

<割り当て>

発表者と観察者を決めましょう。